

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																				
麻生外語観光&製菓専門学校		平成3年1月8日		瀧口 博俊		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-14-17 (電話) 092-415-2293																				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																				
学校法人 麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																			
商業実務	商業実践専門課程		エアポート科			平成22年文部科学省 告示第31号	-																			
学科の目的		空港施設での業務に必要とされる専門知識、専門資格、技能を備え、即戦力として通用する人材の育成を目的とする。																								
認定年月日		平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																		
	2年 昼間	1745		1215	210	320	0	30																		
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																
60人		35人		0人		1人		14人		15人																
学期制度	■前期:4月1日~8月31日 ■後期:9月1日~3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、出席状況、授業態度 確認テスト等の総合評価																			
長期休み	■夏季:8月8日~8月15日 ■冬季:12月25日~1月6日 ■春季:3月9日~4月4日				卒業・進級 条件		ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。 学科責任者との面談、三者面談の実施。				課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 航空業界(主に航空機地上支援業務)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 希望する業界(企業)と個々の適正を見定め、指導、助言を与える。						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ基礎コース</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ危険物コース</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>公益財団法人 日本無線 協会主催 第三級陸上特 殊無線技士</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ基礎コース	③	12	12	一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ危険物コース	③	12	12	公益財団法人 日本無線 協会主催 第三級陸上特 殊無線技士	③	12	12
	資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
	一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ基礎コース	③	12	12																						
一般社団法人 航空貨物 運送協会主催 IATAタイプロ マ危険物コース	③	12	12																							
公益財団法人 日本無線 協会主催 第三級陸上特 殊無線技士	③	12	12																							
■卒業者数 12 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに 該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 (令和元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)				■自由記述欄																						
中途退学 の現状	■中途退学者 0名 令和元年5月1日時点において、在学者26名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者26名(令和2年3月31日卒業者を含む)				■中退率 0%		■中途退学の主な理由 中途退学者なし																			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 東日本大震災により被災して進学が困難になった者を対象に、入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。				■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科の ホームページ URL	http://www.asoju.ac.jp/aftc/subject/airport/																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業連携により、実践的かつ専門的な職業教育を実践することで人材養成課程の質の保証・向上を基本方針とする。授業科目開設においては、卒業生を対象とする「お客様アンケート」結果による企業視点を軸とし、航空業界、空港での地上支援業務において必要とされる知識・技術の修得を目指す。実践の機会として設定するインターンシップでは、職業像と必要適性を明確にし、各自の具体的なキャリアプランを構築するための取り組みとする。また実務を経験し、適切な指導・評価を受けることで学内での学習との相乗効果を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専攻分野における市場動向や地域産業振興の方向性等に関する意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とし、教育課程編成委員会を設置する。尚、委員会では、次に掲げる事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議では、教育課程編成委員会の審議内容を基に、授業科目の改善や新規開設、授業内容や授業方法の改善を検討する。これにより専攻分野で必要とされる知識・技能の修得を可能とする質の高い教育の提供を目指す。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
増田 義孝	航空貨物研修センター 代表	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	①
尾本 聡	ANA福岡空港株式会社 貨物・グランドサービス部 マネージャー	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	③
三苫 秀一郎	麻生外語観光&製菓専門学校 副主任	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	
瀧口 恵子	麻生外語観光&製菓専門学校 エアポート科専任教員	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)年2回 9月、11月

(開催日時(実績))

令和元年度 第1回 令和元年6月12日(水) 16:40～17:20

令和元年度 第2回 令和元年10月16日(水) 16:00～16:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

航空貨物分野において近年、危険物等の取り扱いに関して重要性が増しているという状況を踏まえ、引き続き、航空貨物に関連した授業内容の強化を行い、学生の知識向上を図ることとした。また地理関係の知識も不可欠という意見を受け、海外地理や国内地理の科目を設置し、将来の業務に関わるトータルな知識の底上げをできるようにカリキュラムの変更を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の下、専攻分野における実務に関する知識、技術および技能を教授し、就職に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。その内容については、将来航空業界において即戦力となり得る人材育成のための、より実践的な職業教育の質の確保を目的とし、企業との密接な連携による最新の実務を的確に反映した教育を提供する。具体的には、実践の機会である空港実習を設定し、職業像と職業適性を認識させることで、学生自らが具体的なキャリアプランを構築することを可能にする。また、実務を経験し、指導・評価を受けることにより学内での学習との相乗効果を図る。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

授業科目の担当教員と連携している企業とで、事前に実習内容を協議し詳細に決定するとともに、学生の学修成果の評価指導についても事前に定める。航空業界において必要な知識や技術を修得できるよう、貨物・手荷物仕分け、搭載補助等を空港内にて実施し、修得の進捗は学生が専用の実習ノートに記録する。実習成果は、この記録にて確認する。実習先企業の実習担当者が学生の評価票を作成し、担当教員がその評価票を基に最終評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業インターンシップ	実際に空港で主に貨物分野における業務に携り、知識や技能を身につけ、社会人としての意識を定着させる。	ANA福岡空港株式会社 株式会社イーエスオー 平野運輸株式会社 株式会社エスエーエス
エアクラフト	航空機の構造をはじめ、業務に関わる機材・操作等に関するの基本知識を修得させる。	株式会社イーエスオー

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：空港地上支援業務とその他の関連業務研修

連携企業等：ANA福岡株式会社

期間：令和元年7月1日 対象(参加者)：三笥 秀一郎

内容：現在のグランドハンドリング業務の現状及び貨物関連業務に関し学ぶ

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：3つのポリシーの策定・運用実践

連携企業等：先端教育機構

期間：令和元年9月11日(水)、令和元年9月25日(水)、令和元年10月30日(水) 対象(参加者)：三笥 秀一郎

内容：教育の質保証における3つのポリシーの重要性及び関連性について理解するとともに、その策定や運用方法を
実習やケーススタディなどを通じて学ぶ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 空港地上支援業とその他の関連業務に於ける研修

連携企業等: 株式会社エーエスオー、ANA福岡空港株式会社 対象(参加者): 瀧口 恵子

期間: 令和2年10月、11月

内容: 3つのポリシーに則った教育の更なる質の向上と業界の最新情報の共有

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 相手も自分も活かす、個別対応強化研修

連携企業等: 組織デザイン・ラボ

期間: 令和2年9月

内容: 人との関わり方や考え方による4つのタイプを知り、タイプ毎の対応方法を知る。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学科別に落とし込んだカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが整備、明瞭化されているという評価を受け、学科の人材育成像に沿った各カリキュラムの学習目標の設定を行い、その科目を学ぶ意義を理解することで、学習効果の向上を図った。また、航空業界の最新情報を提供することに関しては、業界誌、Web等での日々の情報収集、企業連携による専門科目講師や卒業生との連携において、これらを提供することとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
溝口 敦子	ホテル・リゾート科在校生 保護者	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	保護者
堀部 豊和	平成22年度 卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区 自治会長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	地域住民
甲斐 直樹	福岡県立嘉穂東高等学校 校長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	高校関係者
松坂 寛則	九州マレーシア協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

鶴田 武彦	福岡県洋菓子協会 専務理事、事務局長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
翁林 友子	ANA福岡空港株式会社 旅客サービス部 旅客サービス課 マネージャー	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
尾本 聡	ANA福岡空港株式会社 貨物・グランドサービス部 マネージャー	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
大屋 寿	株式会社 ニューオータニ九州 執行役員人事総務部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
柳原 久一郎	株式会社ブライトウェイ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aftc/2019/hyoka.pdf/>
 公表時期: 令和元年7月22日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、6つの特徴
(2)各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3)教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6)学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7)学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
<http://www.asojuku.ac.jp/aftc/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程エアポート科) 令和2年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			IATA [®] イ [®] マ [®] 基礎	国際航空貨物取扱士（基礎コース）PAPER I 対策	1前	75	5	○			○			○	
○			海外地理	海外主要都市・主要空港の位置やその周辺の都市をメインに地理や歴史の角度から学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○			航空概論	航空業界の様々な職種を説明し、各々の部署が協力し業務が完結していることを理解させる	1前	15	1	○			○				○
○			空港実務 I A	航空機輸送に伴い、暗算教育並びに、危険物取扱い等に関する教育を実施。国内空港の3レター、航空会社3レター、2レター他	1前	15	1	○			○				○
○			空港実務 I B	航空機輸送に伴い、暗算教育並びに、危険物取扱い等に関する教育を実施。貨物品目コード、DGRコード、航空機の種類他	1後	30	2	○			○				○
○			エアクラフト	日本の各空港で運航されている航空機の代表的な機種の機体構造や各システム等、グラウンドハンドリング業務上で必須となる基礎知識を理解する	1前	15	1	△	○		○				○ ○
○			航空品質管理 I	空港従事者として、安全運航に関する知識を習得をする	1後	15	1	○			○				○
○			GCB I	感謝と思いやりの教育	1前	15	1	○	△		○			○	
○			一般教養 I A	国語、数学、社会（時事）、英語を総合的に学習し、入社試験に対応できる基礎力の強化を図る（前期）	1前	30	2	○			○				○
○			一般教養 I B	国語、数学、社会（時事）、英語を総合的に学習し、入社試験に対応できる基礎力の強化を図る（後期）	1後	30	2	○			○				○
○			S P I I	入社試験（SPI）対策授業	1後	15	1	○			○			○	
○			社会教養 I A	就職に対する意識付け	1前	30	2	○			○			○	
○			社会教養 I B	身だしなみや履歴書作成の就職試験対策	1後	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ビジネス実務Ⅰ	社会人として好感を持たれる態度や話し方、社会人として求められる心構え・マナーを身に付けることを目標とする	1前	30	2	○			○			○		
○			Word	ビジネス文書作成方法を学び、Word検定3級の取得を目指す	1前	45	3	△	○		○				○	
○			Excel	グラフや表作成方法を学び、Excel検定3級の取得を目指す	1後	30	2	△	○		○				○	
○			コミュニケーション技法	人前で話す、人の話を聞く、人と会話するといったコミュニケーションの効果的な方法を実践形式で学び身につける	1前	30	2	○	△		○				○	
○			ペン字	履歴書作成からビジネス文書まで、ペン字の基礎を修得する	1前	30	2	△	○		○				○	
○			実用英語ⅠA	英検準2級・2級対策	1前	60	4	○			○				○	
○			実用英語ⅠB	航空業界で受験が義務付けられつつあるTOEICの高スコア獲得を目指す	1後	30	2	○			○				○	
		○	国内研修旅行	大規模空港を視察し機側における実務を見学することにより、就職目標を見定める	1前	30	0				○		○	○		
○			企業インターンシップ	実施に空港で業務に携り知識や技能を身につけ、社会人としての意識の定着を図る	1後	320	8	△			○		○		○	○
○			IATA [®] イ [®] マ [®] 危険物	IATA [®] イ [®] マ [®] （危険物コース）対策授業	2前	105	7	○			○				○	
○			空港実務ⅡA	航空機輸送に伴い、安全教育並びに危険物取扱い等に関する教育を実施。安全を堅持するためには何が必要かを理解し修得する（前期）	2前	30	2	○			○				○	
○			空港実務ⅡB	航空機輸送に伴い、安全教育並びに危険物取扱い等に関する教育を実施。安全を堅持するためには何が必要かを理解し修得する（後期）	2後	30	2	○			○				○	
○			航空品質管理Ⅱ	空港従事者として、安全運航に関する意識、感性、手法を学びイレギュラー回避能力を向上させる	2前	30	2	○			○				○	
○			航空貨物演習	航空貨物の重要性を理解し、航空貨物業界の現場に対応できる専門基礎知識を習得する	2前	30	2	○			○				○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			国内地理	国内主要都市・主要空港の位置やその周辺の都市をメインに地理や歴史の角度から学ぶ	2前	30	2	○			○			○		
○			業界地理	国内外の航空主要路線や主要空港周辺の地理学習の総まとめ	2後	30	2	○			○				○	
○			業界研究	2年間で学んだ航空業界に於ける知識を基に、それぞれのテーマに沿った研究を行い、理解を深める	2後	60	4	○			○		○			
○			業界総合演習	企業が求める空港従事者としての安全運航に対する高い意識と感性を備えた人材を養成する	2後	60	4	○	△		○				○	
○			WINDOWS演習	ビジネスの現場で必要とされるレポートや報告書を、Word・Excel・PPを活用して作成する方法を学ぶ	2後	30	2	△	○		○				○	
○			GCB II	志の教育	2前	15	1	○	△		○				○	
○			一般教養ⅡA	国語、数学、社会（時事）、英語を総合的に学習し、入社試験に対応できる応用力の強化を図る（前期）	2前	30	2	○			○				○	
○			一般教養ⅡB	国語、数学、社会（時事）、英語を総合的に学習し、入社試験に対応できる応用力の強化を図る（後期）	2後	15	1	○			○				○	
○			SPIⅡ	入社試験（SPI）対策	2前	30	2	○			○				○	
○			実用英語ⅡA	実用英語検定準2級と2級の取得を目指す	2前	60	4	○			○				○	
○			実用英語ⅡB	実用英語検定準2級と2級の取得を目指す	2後	60	4	○			○				○	
○			英会話	日常の英会話の基本から仕事上で必要なビジネス英語などを中心に学ぶ	2後	30	2	△	○		○				○	
○			社会教養ⅡA	就職に向けての準備をはじめ、社会人として必要な常識やマナーを修得する（前期）	2前	30	2	○			○		○			
○			社会教養ⅡB	就職に向けての準備をはじめ、社会人として必要な常識やマナーを修得する（後期）	2後	30	2	○			○		○			

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ビジネス実務Ⅱ	ビジネス能力検定3級の取得を目標にテキストを基本に講義と過去問題演習を通じ、社会人としてのスキルを身に付ける	2前	30	2	○	△		○			○	
○			ビジネスマナー演習	幅広い年齢層の方に好まれる接遇を1年生で学んだことを復習しながら、ロールプレイによりコミュニケーション・接遇のスキルを伸ばす	2後	30	2	○	△		○				○
○			サービス介助	自分のできることや自分の役割を常に意識し、自発的に様々な人に関わり、円滑なコミュニケーションと快いサポートが提供できるようになるスキルの習得を目指す	2前	30	2	△	○		○				○
合計				44科目	1775単位時間(103単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
ア. 指定科目全ての修得 イ. 各学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	